不登校対策資料

2学期スタートの不登校対策のポイント!

西部教育事務所(H30.8)

長期休業明けは、不登校児童生徒が増加する傾向にあります。児童生徒のちょっとした変化（サイン）を見逃さず、子供たちに寄り添った指導・支援をしていくことが必要です。子供たちを見守る視点を全職員で再確認して新学期を迎えるようにしましょう。

＜ポイント１＞子供たちの変化を迅速に把握！

２学期がスタートした１～２週間は、特に子供たちの変化を迅速に把握するために、次のようなことを心がけていきましょう。

①少しでも気になったら学級担任を中心に情報共有

以下のような点について少しでも気になることがあれば、学年や学年ブロック、学校全体で情報を共有し、原因について考えたり、対応策について話し合いましょう。

○　遅刻や欠席が増える。
○　休み時間に、一人でぽつんとしていたり、ぼんやりしたりしている。
○　保健室や相談室に行く回数が増える。
○　友人関係が急激に変化する。
○　学校に必要のないものを持ってきたり、服装や表情に変化が見られたりする。

②課題の取組状況の確認

夏休み中の課題が未提出であったり、１学期までの学習内容の理解が不十分であったりして、児童生徒が登校に不安を抱えていないか確認しましょう。

○　教科担当と学級担任で、課題の提出状況について情報を共有する。
○　課題が未提出の児童生徒がいる場合、提出できない原因について考え、補習などで課題が仕上がるようにするなど、個に寄り添った支援を行う。

＜ポイント２＞欠席し始めの初期対応が重要！

欠席が長期化すると、登校へのきっかけがつかめなくなってしまいます。不登校の兆しが見られたら、学級担任を中心に全職員で対応しましょう。

①安心感を与える電話連絡（休み始め）

○　児童生徒本人の様子や家庭の様子、保護者の考えなどを把握する。
○　学校は児童生徒や家庭とつながり、支援をしたいというメッセージを伝える。

②早期対応が重要な家庭訪問（連続欠席３日）

○　信頼感や安心感をもってもらうために、事前連絡をしてから訪問する。
○　自分の子供が登校を渋っているという保護者の不安な気持ちに寄り添い、子供や保護者の話を受容して聞く。
○　不登校の原因を問い詰めたり、強すぎる登校刺激を与えないように注意する。

※登校しやすい環境整備（長期化しないために）

○　不登校児童生徒について、教職員で共通理解する。
○　温かな学級づくりについて再確認する。
○　なかなか教室に行けない児童生徒のために、別教室などの居場所づくりを行う。

「不登校児童生徒の自立に向けて－すべての子が楽しく通える学びの場を目指して－」（県教委：平成３０年３月）や「夏季休業中における生徒指導の重点」（西部教育事務所：平成３０年７月）などを全職員で再確認して、２学期のスタートの準備をしましょう。